

6 本時のねらい

使いやすいポケットや付属品の工夫を考える活動を通して、使用目的や対象者に合わせて形や大きさ、種類、配置を決めることが大切であることに気づき、根拠を明確にして工夫することができる。

7 本時の展開（3／8時）

過程	生徒の主な学習活動	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて	留意点等
課題設定	<p>1 自分、家族の生活が豊かになるウォールポケットバッグのストーリーを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 私のおばあちゃんは、立ったり座ったりするのが大変になってきた。小物が机の上に出してあると、落として踏むこともあり怪我につながって危険なので、整頓できるようにしたい。いつも座っているソファの近くに文房具やティッシュ、目薬などがまとまっていれば、わざわざ取りに行かなくて楽だし、デイサービスに行くときにも、そのまま小物が持っていけるので便利。 <p>2 本時の課題をつかむ。</p>	<p>【主体的な学び】 生活や社会の中から問題を見いだす</p> <p>収納する、持ち出す、元に戻すなどの、使う人の生活の動きを具体的にイメージする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時までにはポケットに入れるものと大きさを決めておき、種類や配置まで考える時間を確保できるようにする。 <p>工夫・改善点 何を入れるのか、誰がどこへ持ち出し戻すのかというイメージ、どのような課題を解決していきたいのかを再確認し、あいまいな点は問い返す。</p>
	<p>課題：使いやすくするためには、ポケットや付属品をどうすればよいだろうか。</p>		
課題追究	<p>3 使いやすいポケットや付属品にするために何を考えるべきか交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 取り出しやすい形や大きさを考えるといい。 ポケットの形や付属品で、物が落ちにくい工夫をするといい。 <p>4 どのような工夫ができるか、布と方眼紙を用いて具体的に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 取り出しやすく、小物がどこにあるかすぐに分かるために、ポケットを仕切りたい。 取り出しやすいように、ゆとりを持たせ、物が少し見えるくらいの深さにしたい。 物が落ちないように、しっかり物が隠れる深さにして、さらにポケット口にスナップボタンをつけたい。 <p>5 工夫とその根拠をグループで交流し、その後全体で視点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ポケットの高さを短くすると、取り出しやすくなりそう。 軽いものは上の段に、重いものは下の段にすれば、安定しそう。 おじいちゃんが使いやすいように、ボタンではなくマジックテープにするとよさそう。 テープを縫いつけることで、必要に応じてものを掛けられるから便利。 <p>6 仲間の工夫やよさを、再検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> おばあちゃんの取り出しやすさを考えると、やはりマジックテープがいいな。 着なくなった服をポケットに使いたいから、着ていない服があるか調べてみよう。 	<p>【主体的な学び】 見通しをもって解決に取り組む</p> <p>実際に入れる物を持ってきて、イメージして考える。ポケット用の方眼紙に入れるものや工夫を書き込んでいく。(→次回ポケットを製作するときの型紙になる)。必要に応じてポケット等の掲示を見て、参考にする。</p> <p>【対話的な学び】 他者との対話</p> <p>表にふせんをはりながら、視点を明確にして交流する。入れるものの種類や形態など共通の事項について話し合う。使い方や使う人の特徴を根拠として工夫を説明する。</p> <p>【深い学び】 自分の考えの構想</p> <p>グループ交流や全体交流で出た視点をもとに、よりよい作品にするために自分の計画を見直し、修正箇所は色ペンで方眼紙に書き加える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教師が実際に布を動かして見せ、ポケットの大きさ、数、形、配置、スナップやマジックテープ、付け方など、工夫できそうな点に気付かせる。 <p>工夫・改善点 付属品の例やポケットの作り方の資料を用意しておく。製作の見通しがもてるように、作り方や題材の学習の流れを掲示しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 根拠が明確でない生徒には、なぜそうしたいのかを問い、曖昧な点をなくす。 <p>工夫・改善点 共通点、相違点を意識して聞いたり、質問したりすることを確認してから交流に入る。「取り出しやすい」「物が落ちない」ために何をどのように工夫するのかを整理しながら交流できるよう表を用いる。</p> <p>工夫・改善点 再検討する際のヒントになるように、配置、ポケットや付属品の付け方など、様々な視点で考えた生徒を全体交流で紹介し、板書に位置付けておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 再検討した生徒を紹介し、考えの変容等を意識して振り返ることを示す。
	課題解決	<p>7 本時の授業を振り返る。</p> <p>■授業後の意識</p> <p>最初は、おばあちゃんがよく使うものがたくさん入れられるようにしたいと考えていて、取り出しやすいように、ゆとりのある大きめのポケットにしようと思いましたが、しかし、持ち出す場合を考えると、小物が落ちない工夫が必要です。おばあちゃんは手先が器用ではないので、ボタンではなく、マジックテープをつけることにしました。特に大事なものをいれるポケットにはふたを付けたり、違う布にして間違えないようにするという工夫もしたいです。入れるものに合わせて大きさやゆとりを考えるだけでなく、使う人の願いや目的に合わせて、工夫を考えることが大切だと思いました。</p>	

